

冒頭知事発言

1. 感染防止対策の徹底について

オミクロン株が11月30日に国内初の感染者が確認され、本日までに2例の感染例が確認されております。

今のところ府内での感染事例や濃厚接触者の情報はございません。

オミクロン株は、感染力の強さや重症化の程度、ワクチンの有効性など、未だ不明な点が多い訳ですが、未知のリスクには慎重の上にも慎重に対応すべきと考えています。

そのため、京都府としましては、当面の間、オミクロン株であるかどうかが判明していなくても陽性者の方全員に一旦入院していただき、京都府保健環境研究所において、デルタ株のスクリーニング検査を経た後、ゲノム解析を実施します。検査の結果、オミクロン株でないことが判明した時点で、重症化リスクが無いなど入院を必要としない方については、宿泊療養施設での療養に切り替えさせていただきます。

さらに、オミクロン株陽性者の濃厚接触者の方につきましては、宿泊療養施設への入所を依頼し、施設において2日に1回程度のPCR検査を実施するなど、オミクロン株の感染拡大の予防に努めてまいります。

この後、全国知事会や厚生労働大臣に対しても水際対策の徹底等を求めてまいります。

オミクロン株は不明な点が多いですが、今後とも、府民の皆様には正確な情報をお届けできるよう広報に努めてまいりますので、府民の皆様・事業者の皆様には、引き続き、3密の回避、特に会話時のマスクの正しい着用、手洗いの徹底など、基本的な感染防止対策のご協力をお願いいたします。

2. ワクチンの3回目接種について

今月1日から新型コロナワクチンの3回目接種がスタートしました。

海外でのオミクロン株等による感染再拡大や、冬場はもともと感染症の流行期であること、さらに年末年始は人の動きが大きくなることなど、感染の再拡大を招かないためにも、3回目接種による発症予防・重症化予防への高い効果がワクチンには期待されます。

国から示された来年2月・3月分の接種ワクチンの配分予定については、半分近くがモデルナ社ワクチンとなっており、交接種を前提とした接種を進めていくことが必要になります。

一方で、1・2回目接種用として、90%の方が接種できるよう国からはワクチンが配分されていますが、現在、京都府の2回目接種率は約82%であり、その差として、1・2回目接種用のファイザー社ワクチンの未使用分約16万回分がございます。

府としてはこのワクチンの活用も含め、希望する方が3回目接種を円滑に接種いただけるよう、準備を進めてまいります。

今後、接種の時期が近づきましたら、お住まいの市町村から接種のご案内と接種券がお手元に届きますので、それまでもうしばらくお待ちいただきますようお願いいたします。

ワクチン接種についても、未確定な要素がございますが、早い目の準備を進めるよう医師会、市町村等関係の皆様との調整を進めてまいります。

京都府におけるオミクロン株の感染疑いがある患者等の当面の対応について

症状・株種を問わず全ての陽性者

全陽性者

入院（個室）

スクリーニング検査
ゲノム解析

オミクロン株

入院継続

【有症状者】
症状軽快後24時間経過
< 検査①陰性 >
24時間経過
< 検査②陰性 >
【無症状者】
陽性判明から6日間経過
< 検査①陰性 >
24時間経過
< 検査②陰性 >

退院

デルタ株等

【入院が必要な方】
入院継続
【軽症・無症状者】
宿泊療養施設へ入所等

【有症状者】
発症日から10日間
かつ
症状軽快後72時間
【無症状者】
検体採取日から10日間経過

退院等

オミクロン株陽性者の濃厚接触者

宿泊療養施設へ入所（個室）

検査（2日に1回）
健康観察

陰性

最終接触から
14日間経過

退所

陽性